

○令和2年度 教育事業

「ボランティア養成塾」(R2.8.15(土)～16(日))

◆目的

青少年の体験活動を支援するボランティアを行う上で必要な知識・技能について学ぶとともに、次世代を担う青年層の自立を促し、社会を生き抜く力を磨く機会とする。

◆参加実績(定員20名)

参加5名

年代別内訳

高校生	3名
大学生	2名

地域別内訳

旭川市	3名
上川管内	2名

◆日程

			11:15		12:15	13:00		14:30		18:30	19:00		21:00	22:00
8/15 (土)			受付	開講式	説明①	昼食	講義①	講義②・実習		休憩	講義③		入浴	就寝準備
	6:30	7:30	9:00		12:00	13:00		14:30	15:30					
8/16 (日)	起床	身支度	朝食	演習	昼食	講義④	説明②	閉講式	解散					

◆プログラム

①【講義①】子供たちの「いま」を知ろう(90分)

講師：国立大雪青少年交流の家次長

参加者はグループワークを通して、自分のなかで子供たちのイメージを広げ、他の参加者と意見交換しながら、今の子供の特徴をまとめた。その後、一般的に言われている子供の特徴のレクチャーを受け、現代的な課題があることを学んだ。



②【講義②・演習】子供の安全を守るために野外炊事で学ぼう(240分)

講師：北海道教育大学岩見沢校准教授 濱谷 弘志 氏

前半は、事故や怪我がどういった場合に起こりやすいのかやどんな原因が多いのか学ぶとともに簡単な手当の仕方やAEDの使い方を体験した。後半は、野外炊事活動を通して危険に感じたことや、その危険への対処方法等を考え、意見交換した。



③【講義③】交流の家や施設のボランティア活動について知ろう(120分)

講師：国立大雪青少年交流の家主任企画指導専門職

青少年教育施設について、設置の目的や現在の取組などを学んだ。また、青少年教育施設でのボランティア活動について、どんなことを行っているのか紹介し、理解を深めた。



④【演習】子供の成長を支えるために大雪プログラムで学ぼう

講師：国立大雪青少年交流の家企画指導専門職

ボランティア時に必要な技術を身に付けるために、まずはどの活動も目的があり、そのために子供たちとどう
いう関わり方が必要か学んだ。その後、交流の家のウォークラリーを体験し、子供たちにどんなことを伝えたい
かやどういう声かけをしたらよいか意見を出し合った。

⑤【講義④】ボランティア活動の意義

講師：国立大雪青少年交流の家企画指導専門職付、大雪ボランティア

一般的な「ボランティア」の意味や意義について学び、交流の家で活動しているボランティアから、自分が感
じるボランティア活動の意義について発表があった。その後、参加者はどんなボランティアになりたいか考え、
発表した。

◆事業運営・企画のポイント

- 法人ボランティア養成事業のカリキュラムに則り、聞くだけでなく、自分の考えなども話せる時間を多
く設けることで、受け身にならず主体的に事業に参加してもらえるよう計画した。
- 本事業で養成したボランティアが今後の教育事業等に来やすくなるよう、企画指導専門職全員がプログラム
で関わりを持つように職員の配置を設定するとともに、ホスピタリティを前面に出し、事業の運営を行った。

◆参加者の声

- みんなで話し合うことで、他の人の意見も聞くことがで
き、色々な考えがあることがわかった。
- 危険な場面を実際に体験したことで気をつけるところが
わかった。
- たくさんの施設がありアイスブレイクをすることでコミ
ュニケーション能力のつけ方が今後の為になった。
- 実際に歩いて子供の想定をし、今後の対処法を学べた。
- 心構えを学び、自分もしっかりしなければと思った。



◆事業の成果と課題

- ①参加者アンケートから、参加者にボランティアを行う上で必要な知識や技能を学んでもらうことができた。
また、社会を生き抜く力としてコミュニケーション能力等もプログラム内で培うことができた。
- ②高校の生徒会やインターアクトクラブへ広報を行い、高校生の参加につながったが、参加者は定員を満たす
ことはできなかった。今後は、年度が始まる前にボランティア活動団体に広報へ伺い、年間計画に加えてい
ただく等の対策が必要である。

◆事業運営費	合計	41,059 円
通信運搬費	・	1,656 円
業務委託費	・	36,351 円
燃料費	・	3,052 円